

資料翻刻

8 武田晴信書狀

急度令啓候、仍与郎事、今日者／如何申廻候哉、承度候、然而依躰、／明日向于小諸、可成動覚悟ニ候、／各々人数を不散、其支度候様ニ、／可被仰付候、又攻具等之用意、堅／親類被官衆へ、可有意見候、恐々／謹言、

八月十日 晴信（花押）

左馬助殿

9 武田信繁書狀

被丹精本尊之像并卷／數・ゆかけ贈給候、謹頂戴／珍重候、諸余彼口上ニ申／附候条、猶期来書之砌候、／恐々

敬白、

（永禄四年）
壬三月廿七日 信繁（花押）

妙法坊

14 武田信廉書狀

西方衆逆心之仁還所、今度於御陣中各へ／被仰出、御分国御追放候、有賀方之義、今迄／相拘色々仕候へ共、不事成候間、其分申出し候、誰成共／可口才被官被仰付候而、彼仁之知行所・被官以／下相改、所務之分、未進之分、被官之仁、以書付／可有任せ候、則可入御披見候、自余之諸物ニハ取合／不可有之候、此内可有御蔵出も候、猶彼口上ニ申含候、／恐々謹言、

（天文十七年）
霜月十四日 信廉（花押）

千野左兵衛尉殿

15 武田信綱判物

舎兄宮内少輔就無比類打死、堅／自上意御取立、其方

還俗之旨／申詞候上者、彼知行等聊無異義／被請取、軍勤之奉公、可被名跡次候、／随而御約束之間御重恩、就中／涯分可申詞者也、仍如件、

（元龜四年）
癸酉

五月廿八日 遣遙軒（花押）

千野神三郎殿

22 穴山信君判物

（花押）

每度後之奉公／無疎略勤之間、／自今以後自／余之百姓

役、悉／令免許者也、／仍如件、

（天正四年）
丙子

十一月十日

森彦左衛門

初鹿見

船方衆

23 穴山信君朱印狀

於其郷もちり／別而馳走之由／言上候、猶諏方部／宮内

左衛門尉助言／次第、奉公可令／者也、仍如件、

（天正八年）
辰 江尻（栄）朱印

八月廿五日

彦左衛門

右近助

与兵衛

24 穴山不白判物

明院和尚御瑞世／御催ニ付而

十兩 梅雪齋

十兩 自内方

五兩 局

大学助

右如此可令調／進之候、弥御馳走／專要候、恐々敬白、

（天正九年）
七月廿八日 不白（花押）

侍衣閣下

25 穴山勝千代朱印狀

南部宿中伝馬之事

右伝馬先年梅雪齋如仰定候、／刻付已下定之畢者、勤伝

馬／族縦雖為奉公人、伝馬屋敷ニ／令居住者、如相定可

勤之、畢竟／彼宿中之儀、可為伝馬衆仕配、／若令見除

在々ニ有之、追而可申／付候、及異儀者、無沙汰之人之

家／財・名田共ニ可出之者也、仍如件、

天正十年壬午

十月三日

南部之宿

26 穴山勝千代朱印狀

南部伝馬法度

一、伝馬不動之者、宿次ニ不可居住事

一、下山江通過之者、至申刻者南部ニ／可一宿、駿州へ

通候者ハ、酉刻已後／南部ニ可令一宿事

一、除公用、伝馬ニ塩不可着事

一、雖為御公用、御印判令拜見、伝馬可出之事

一、自前々立入候山林、無異儀可取草／木之事

右条々相守之、自今以後、伝馬奉公／可致之者也、仍

如件、

天正十一年癸未

三月廿一日 勝千代（印文未詳朱印）

28 武田信玄書狀

就于蒲原落居、早々御音問／祝着候、抑去六日当城宿放火候キ、／例式四郎・左馬助聊爾故無紋ニ／城へ責登候、寔恐怖候之処、不／思儀ニ乘崩、城主北条新三郎兄弟・清水・笠原・狩野介已下之凶徒、惣而／当城ニ所楯籠之土率不殘討捕候、／当城之事者海道第一之嶮難之／地ニ候、如此輒達本意候、非人作候、／剩味方一人も無恙候、可御心易候、／恐々謹言、
(永祿十二年)
十二月十日 信玄(花押)

德秀齋 御返報

29 武田信豊書狀

〔端裏切封〕
〔墨引〕
蒙仰旨、至于御真実者、御／誓詞可給置之由、申届候処、速被相認、被指越候、欣悦／候、幸勝頼海津着陣／候間、右之趣、具ニ申聞候、／委曲附与彼口上候間、不能／具候、恐々謹言、
(天正六年)
六月十二日 信豊(信豊) 朱印)

上杉彈正少弼殿

30 武田信豊書狀

如貴意去出馬之刻、存知之俣駿遠之仕置／被申付、帰館尤御大慶不可及是非候、因茲／拙夫方迄一種御音信、御芳志之至不知所／謝候、仍去春以松看齋・蒲庵被申入候／被任筋目、御老母御在府、雖不玆儀候、追日／御真実之至被感入候、然者如御所望、三郎次郎殿／卅日御休息御尤之由被申候条、先以可被易／貴意候、委細御使節屈千村口上候条、不能／具之趣、可得御意候、恐々謹言、

武田左馬助

六月廿二日

信豊(花押)

義昌 貴報

31 板垣信方判物

下桑原之内／御射山神田、／如前々年貢／請取、御祭礼／可被相動者也、
板垣
天文十二年癸卯
七月吉日 信方(花押)

權祝殿

32 板垣信安起請文

〔懸紙ウハ書〕

上

板垣左京亮

敬白 起請文

一、此以前奉捧候數通之誓詞、弥々不可致相違之事、
一、奉对 信玄様、逆心謀叛等不可相企之事、
一、為始長尾輝虎、從敵方以如何様之所得申旨候共、不可致同意候事、
一、甲・信・西上野三ヶ国諸率雖企逆心、於某者無二／奉守 信玄様御前、可抽忠節之事、
一、今度別而催人数、無表裏、不涉二途、可抽戰功／之旨可存定事、
一、家中之者、或者甲州御前惡儀、或者臆病之異／見申候共、一切ニ不可致同心之事、
右条々令違犯者、蒙 上者梵天・帝釈・四天王／王・炎魔法王・五道之冥官、殊者甲州一二三大明神、／国立橋立兩大明神・御嶽權現・富士淺間大菩薩・当国／諏方上下大明神・飯繩・戸隠、別熊野三所權現・伊豆／箱根・三嶋大明神・正八幡大菩薩・天満大自在天神之／御罰、於今生者享癩病、到来ニ而者可致墮在無／間之底者也、仍如件、

板垣左京亮

〔永祿十年〕
八月七日

信安(花押・血判)

左近助殿

浅利右馬助殿

37 馬場信春書狀写

〔武將文苑 秋〕のうち

尊書殊御祈念之御卷數頂戴、并兩種／被下候、奉忝存候、此表相応之儀可被仰下候、／疎意存間敷候、恐惶謹言、
馬場民部少輔
八月十一日 信□(花押影)

成慶院 尊答

40 小山田信茂判物

長生寺々領之事

一、五貫文

中嶋用津院開山之御代

耕雲寄進

一、三貫文

花崎東光寺分長生寺開山御代
但此内式百文施餓鬼免

契山寄進

一、三貫文

鹿留長生開山御代
但此内式百文者祭引也

契山寄進

一、五百文

中津森馬場同御代

為義山菩提
契山寄進

一、貳貫文

同所西田同御代

為涼苑菩提
契山寄進

一、六貫文

古河渡同御代

同為契山寄進

一、壹貫文

深田 同御代

同為契山寄進

一、壹貫五百文

長生寺門前同御代

契山寄進

此外

都合廿貳貫文

一、主山

中津森之内長生開山之御代

契山寄進

一、鷹巢

小片山之内同御代

契山寄進

一、獅子岩 中津森之内同御代 契山寄進

一、大峰 同所明庵御代 契山寄進

以上

一、五貫七百文但此内三百文藥師堂免 十日市場・保尾・小倉笑伝御代 為桃隱菩提
常瞻院へ信茂
寄進

五百五十文荒地

一、六貫六百六文 推野長徳庵同御代 為貞母逆修
但右之内壹貫文看主免 信茂寄進
殘壹貫六文七十八文役錢也

一、四貫四百九十文 但右之内八百文看主免 同為信茂寄進
殘壹貫六百五十文役錢

一、貳貫八百五十文 但右之内三百文祭二引之 信茂寄進
八百六十五文役錢

都合拾九貫六百七十五文

元龜四年癸酉 初秋三日 小山田左兵衛尉信茂 (花押)

長生禪師寺 衣鉢閣下

43 武田勝頼書狀

為嫁娶之祝儀、以秋山／伊賀守蒙仰候、目出玆／重候、仍太刀一腰・馬一／疋黒毛・鵝眼千疋送給候、／欣悅候、來春者、自是／早々祝詞可申達候、猶／小山田可申候、恐々謹言、

(天正七年) 十二月廿三日 勝頼 (花押)

上杉殿

44 小山田信茂書狀

遙々有御無音之旨、被仰達候、御入魂之至、／一段本望被存候、貴国追日御静謐之由、／自何以被致満足候、当表之事も方方／無異儀候、來秋之備、近日以使者可被申合二／候条、令期其時候趣、可得御意候、恐惶謹言、

小山田

(天正八年乙未) 七月廿三日

信茂 (花押)

春日山 人々御中

45 小山田信茂書狀

態捧愚札候、仍有所用、以西山土佐守／被申達候、様子被聞召届、一々御返／答、乍恐肝要奉存候由、可得尊意候、／恐惶謹言、

小山田出羽守

(天正九年) 五月十七日

信茂 (花押)

春日山 人々御中

46 山県昌景・高坂虎綱連署狀

当家代々御位牌所之義、／領分貴賤參詣之輩、高野山／細入成慶院江寄宿之由、／以前被仰出候、尤使僧廻国／之砌、無滞案内之事二候、／若違背之族者、不限沙汰候、被仰出之趣、仍如件、

元龜二年

山県三郎兵衛尉

三月九日

昌景 (花押)

高坂彈正

虎綱 (花押)

高野山細入

成慶院

48 両角昌守起請文

(懸紙ウハ書) 上

両角

敬白起請文之事

一、此以前奉捧候數通之誓詞、弥不可致相／違之事、

一、奉封 信玄様、逆心謀叛等不可相企之事、

一、為始長尾輝虎、自御敵方以如何様之所得／申旨候共、不可致同意候事、

一、甲・信・西上野三ヶ国諸卒、雖企逆心、於／某者無

二・三奉守 信玄様御前、可抽忠節之事、

一、今度別而催人数、無表裏、不涉二途、／可抽戰功之

旨可存定事、

一、家中之者、或者甲州御前惡儀、或者臆／病意見申候共、一切二不可致同心候事、

以上、

右条々偽候者、

蒙 上者梵天・帝釈・四代天王、下二者堅牢／地神・煙

魔法王・五道冥官・八幡大菩薩・熊野三所權現・伊豆箱

根・三嶋大明神・諏方／上下大明神・富士淺間大菩薩・

賀茂・春日／大明神・御嶽藏王權現、別而者甲州一二三

／大明神・国建橋立・御旗無楯御罰、於于／今生者受黒

白仁病、來世二而者阿鼻無／間二可致墮在者也、仍起請

文如件、

永祿十年 両角助五郎

八月七日

昌守 (花押・血判)

吉田左近助殿

浅利右馬助殿

49 武田家朱印狀

自信州繩取下、任御先約／被下置候、但此内除當時奉／公之人本領畢、然而被築／御地利歟、無摺有子細者、為／替龜倉近辺并とかり郷／可被相渡之趣、被 仰出者也、仍如件、

永祿十一年 春日彈正忠奉之

十一月拾七日 (龜朱印)

市川新六郎殿

50 武田家朱印状

定

今度長篠籠城之砌、勵／無類之戰功頸一被討捕条、神／妙被思食候、殊去五月於井伊／谷、別而忠信之由御悅喜候、／然而三州御本意之上、於／西三河之内必相当之地一所／可被宛行之趣、被 仰出者也、／仍如件、
元龜四癸 山県三郎兵衛尉

十一月廿三日(龍朱印) 奉之

伊藤忠右衛門尉殿

51 武田家朱印状

定

從当甲戌正月至丙子／十二月、諸普請役御／免許候条、相当之川除無／疎略可相勤、若令無沙汰者、／可被加御成敗者也、仍如件、

天正二年甲 土屋右衛門尉

正月十一日(龍朱印) 奉之

山神郷

52 武田勝頼書状

被入于念、節々脚力到来珍重候、如顯／先書候、当城涯分無由斷諸口相稼候／故、本・二・三之曲輪堀際迄責寄候、落／居不可過十日候、昨今者、雖種々惘望候、／不能許容候、然而僥倖軒医療故、／一德齋煩少々被得驗氣之由大慶候、猶／其城用心無疎略肝煎頼入候、恐々謹言、
(天正二年) 五月廿八日 勝頼(花押)

53 真田昌幸書状

就于 上意令啓候、仍新御館被移／御居候条、御分国中之以人夫、御一／普請可被成置候、依之近習之方ニ跡部

／十郎左衛門方其表為人夫御改被指遣候、／御条目之趣有御得心、来月十五／日ニ御領中之人々も着府候様ニ、可被仰／付候、何も自家十間人足老人宛／被召寄候、軍役衆ニ者人足之糧米ヲ被／申付候、水役之人足可被指立之由 上意候、／御普請日数三十日候、委曲跡十可被申候、恐々／謹言、

真安

(天正九年) 正月廿二日 昌幸(花押)

55 武田晴信書状

先度雨宮之儀進／判形候き、重而就于／御所望染一筆候／意趣者、今度之忠／信寔ニ無異于他候間、／雨宮之地進之候、然者／此内村上方へ直ニ／奉公之人有持来／所者、可被除之候、／恐々謹言、

天文廿二年

卯月十六日 晴信(花押)

屋代左衛門尉殿

56 武田晴信書状

為雨宮之替地、／新砥進之候、其外／雨宮之内天下条、／小下条之事も、／可為同前候、恐々／謹言、
天文廿二年 八月八日 晴信(花押)

屋代左衛門尉殿

57 武田家朱印状

(龍朱印) 屋代・新戸兩／郷之地下人、／他所徘徊一向／被停止畢、若／背此旨族、自／然ニ被聞届候者、／当主人へ一往／二往有御届、其／上為難渋者、可被加／成敗候、恐々謹言、

永祿元年戊

六月朔日 屋代左衛門尉殿

58 武田家朱印状

御領中之地下人、／今度在所離散候／哉、雖何方徘徊候、／於分国之内者、可／被加成敗候、若有／許容之人者、早可／有名字注進候、可／行同罪者也、仍／如件、
永祿四酉辛 三月廿七日(龍朱印)

屋代左衛門尉殿

60 武田晴信書状

(端裏切封) 年頭之祈念、於御神前／被抽丹誠、卷数并／太刀一腰到来、目出／珍重候、是も表祝儀、／太刀一振指越候、弥／武運長久之懇祈／可為肝要候、恐々謹言、
(墨引) 正月七日 晴信(晴信) 朱印)

大祝殿

61 武田信玄書状

(端裏切封) 年始之嘉慶、不可有／尽期、仍御玉会・太刀／一腰到来、珍重候、弥／於 神前祈念簡／要候、同一振遣之候、／猶高白齋可申候、／恐々謹言、
(墨引) 正月十六日 信玄(晴信) 朱印)

大祝殿

62 武田信玄書状

(端裏切封)

(墨引)

年頭之祈念有／誠精、御玉会并太刀／到来、日出候、是も／表祝詞、一振進之候、／弥武運長久之／懇祈肝要候、恐々／謹言、

正月十七日 信玄〔晴信〕朱印)

諏方大祝殿

63 武田信玄書状

向飛州出勢、然者此時／得勝利、諸卒帰府安／泰候様、參籠于神前、／武運長久之祈念、可／被凝精誠事肝要候、恐々／謹言、

(永祿七年) 七月十九日 信玄

上頭方 大祝殿

67 仁科盛政起請文

(懸紙ウハ書)

「 上 仁科

敬白 起請文之事

- 一、此已前奉捧候数通之誓詞、弥不可／致相違之事、
- 一、奉対 信玄様、逆心謀叛等不可相企之事、
- 一、為始長尾輝虎、從御敵方以如何様之／所得申旨候共、不可致同意候事、

- 一、甲・信・西上野三ヶ国諸卒、雖逆心／企、於某者無
- 二二奉守 信玄様御前、／可抽忠節之事、
- 一、今度別而催人数、無表裏、不涉／二途、可抽戰功之旨可存定事、
- 一、家中之者、或者甲州御前惡儀、或／憶病意見申候共、一切不可致同心事、

右之旨少茂偽候者、

上者梵天・帝釈・四大天王・内海外海龍／王龍神、殊二者王域之鎮守賀茂・春日・／稻荷・祇園・松之尾・平野・梅宮・天満／大自在天神、至于関東者伊豆箱／根三嶋三当・鹿嶋・神取・富士淺間大／菩薩・甲州一二三之明

神・国立橋立・当／国之鎮守諏方上下・小野南北大明神・／飯繩戸隱所權現・八幡大菩薩、惣而日本／国中大小之神祇明道之蒙御罰、於今生者黑白二病請、於来世無間可致墮／在者也、仍如件、

仁科

(永祿十年) 八月七日 盛政〔花押・血判〕

跡部大炊助殿

68 小幡信実起請文

(懸紙ウハ書)

「 誓詞

敬白起請文

小幡右衛門尉

- 一、此已前奉捧候数通之誓詞、弥不可致相違之事、
- 一、奉対 信玄様、逆心謀叛等不可相企之事、
- 一、為始長尾輝虎、自御敵方以如何様之所得／申旨候共、不可致同意之事、

- 一、甲・信・西上野三ヶ国諸卒、雖企逆心、於／某者無
- 二奉守 信玄様之御前、可抽忠節事、
- 一、今度別而催人数、無表裏、不涉二途、可抽／戰功之旨可存定事、
- 一、家中之者、或甲州御前惡儀、或臆病之異見／申候共、一切二不可致同心事、若此義偽二候者、

上三者奉始梵天・帝尺・四大天王、下二者堅牢地神・／八幡大菩薩・摩利支尊天・諏方上下大明神、殊二者／甲州一二三之大明神・氏神敵鳴大明神・赤城／大明神、惣而日本国中六十余州之大小神祇、各可／罷蒙御罰候、以此旨宜預御披露候、仍起請文如件、

小幡右衛門尉

(永祿十年) 八月七日 信実〔花押・血判〕

原隼人佐殿

70 武田信玄書状

急度染筆候、仍其地普請之事、／三人有談合、不舍昼夜可被相持候、／猶用心等是又不可有由断条肝要候、／禰津事も近日可為着城候、可有其心得候、／恐々謹言、

追而、就中堀破損之由候間、／再興專一候、掌中に瘡出来候間、

／用印判候、

五月四日 信玄〔龍朱印〕

71 武田勝頼書状

態飛脚祝着候、誠今度不凶／參府喜悅候、路次中無異儀／帰国之由肝要候、自今以後切々／出府尤候、恐々謹言、

(永禄九年) 三月廿二日 勝頼〔晴信〕朱印)

小幡平三殿

72 武田勝頼判物

(懸紙ウハ書)

「 可遊齋 勝頼

沼田河東之本領、近年被拘来／所、自今以後聊不可有相違、又／藤原之儀雖所望候、先判所持之／人候之間、不及了簡候、然者為／彼替地、師拾八貫文之所出置／者也、仍如件、

天正八年庚辰

七月朔日 勝頼〔花押〕

可遊齋

73 武田勝頼カ条目

(懸紙ウハ書)

「 可遊齋

一、尽未来申合之上者、縦御分国之／面々、以如何様之題目申妨候共、不令／許容、無二無三引立可申事、

一、自今以後、有景勝御用之儀者、／何時も人数御作意次第、加勢可申事、

一、備方之儀者勿論、惣躰越國之儀惡／様之唱於有之者、則申届、其上存／寄通、不殘心腹異見可申事、

以上、

八月廿三日

74 武田信玄書状

以松本加賀守条々承旨得其意候、／就中人質之事尤無余儀候、猶／曾祢掃部助可申候、恐々謹言、

八月八日 信玄 (花押)

安中佐近大夫殿

75 武田勝頼書状

計策之首尾相調候之条、／来朔日令出馬候、三日ニ諏方上／原へ參陣尤候、於此度者別而／可被催人数事肝要候、恐々謹言、

追而如願先書候、長々／在番歸郷無幾程／出陣御勞／煩痛入計候、

以上、

(天正三年) 三月廿四日 勝頼 (花押)

安中左近大夫殿

76 武田勝頼書状

跡部大炊助所へ之来札披見、得／其意候、仍雖氏政豆州出張候、／向後別而可有入魂之由種々懇／望候、当地普請悉出来仕置如／存分申付候、可御心易候、恐々謹言、

追而取乱候者、用印判候、

(天正七年) 九月十七日 勝頼 (晴信) 朱印)

安中七郎三郎殿

77 葛山氏元朱印状

葛山 (一萬歲) 朱印)

瀬名殿御同朋／竹阿弥、有所用／当地へ来候、則歸／宅候之所、於其渡／無手判之由申、此／方へ来候条、即印

／判越候、速可被／通、此間此方之者／と候得者、致懇通／之由喜悅候、何／時も自此方人／越候者、家中／從年寄候者方、手／判可越候、弥無／相違可被通之／条如件、

(永祿十三年) 午

三月廿日

はしかミ

船役所中

78 武田家朱印状

定

其知行本百姓雖他所／徘徊候、如前々可被召返候、／若当地頭令難渡者、可／有言上子細、任道理可被／加御下知者也、仍如件、

元龜二年辛

原隼人佑奉之

三月六日 (龍朱印)

朝比奈駿河守殿

79 武田勝頼書状

任小笠原所望、誓詞遣之候、可／被相渡候、其外合力并領知等之／儀も一々令領掌候、条目之通有／得心、弥可然様御異見尤候、恐々／謹言、

(天正二年) 五月廿三日

勝頼 (花押)

玄蕃頭

84 武田晴信判物

(武田晴信) (花押)

今度於伊奈郡／忠信無比類次第候、／因茲黒駒関錢／之内百貫文可／出置者也、仍如件、

天文拾七申

卯月吉日

山本菅介との

85 武田晴信書状

昨日極楽寺差越候砌、／具ニ申越候キ、仍揺已／下之義、審ニ調談可然候、／次ニ小山田種物相煩、既ニ／極難義候、彼人之事ハ／当州宿老と云、縦／雖如何之隙入候、以三日之／滯留罷越、腫物之／様躰、可見届候、殊更／彼是用所も候間、必々／可罷越候也、謹言、

(永祿元年之) 卯月廿日 晴信 (花押)

山本菅助との

86 武田家朱印状

(龍朱印) 定

一、小者具足二両

一、小者甲手蓋／喉輪四人之分

不足之所、急度／令支度、来出陣之／砌可持參、此外

可／為如日記者也、

(永祿十一年) 戊辰

六月七日

山本菅助殿

87 武田家朱印状

(龍朱印) 定 軍役之次第

一、鉄炮 可有上手歩兵之放手、尙挺ニ 尙挺ニ

一、持鐘 玉藥三百放宛可支度 尙本

一、長柄 実共ニ三間、木柄敷打柄敷 式本

一、小幡 実五寸朱志て有へし 尙本

已上道具数五

右何茂具足甲手蓋喉輪指物有へし、／如此調武具、可動軍役者也、仍如件、

(天正四年) 五月十二日

山本十左衛門尉殿

88 道鬼ヨリ某迄四代相統仕候覺

道鬼ヨリ某迄四代相統仕候覺

一代

山本道鬼晴幸

二代

山本十左衛門尉幸俊 元ハ饗場氏

天文廿辛亥五月 信玄公召幸俊曰、虫及ノ道鬼老年可継家右無の子、汝道鬼惣ノ領之娘ト結婚姻、向後繼山本氏而可抽忠ノ節、即為其証軍役之御朱印ニ山本十左衛門尉トノ改メ記シ被下候時二十、初陳之御供相勉申候、夫ヨリ御出ノ旌之節ハ每度供奉仕相、処々之働相勉申候、ノ信玄公御他界已後、勝頼公ハ奉仕、其後ノ權現様へ被召出候様子ハ別紙ニ委細書付指上ケノ申候、右之御証文相伝リ所持仕候事、

次男

山本菅助幸房

道鬼名跡ニ幸俊被仰付候已後、天文廿二癸丑五月十一日ニ男子出生仕候、ノ幼名兵藏ト申候、道鬼河中嶋合戦ニ討死仕候砌、幼少ニテ有之候故、夫ヨリ幸俊致介抱養育仕候、永禄十一戊辰年兵藏漸十六歳ニ罷成候時ニノ信玄公兵藏ヲ被召出、汝事口道鬼遺体後來菅助ト名ヲ改メ可頭道ノ鬼誉有ヲ、即為其証軍役之御朱印ニ山本菅助ト改メ記シ被下、初陳ノ之供奉相勤、其後御出陳之節ハ每度御備ニ列シ奉益忠節候、ノ然ル処ニ天正三乙亥五月長筈合戦ニ廿三歳ニテ打死仕候、嗣子無ノ御座、断絶仕候故、右之御証文十左衛門処へ相伝リ于今所持仕候事 以上、

三代

山本菅助正幸

正幸儀別紙ニ委細書付指上ケ申候、

四代

山本菅助晴方

某儀ニ別紙ニ委細書付指上ケ申候、

(以下省略)

89 武田家カ朱印状

(印文末詳朱印)

八十貫文相渡ノ申候、残而仁十貫ノ文ハ、やかて可ノ進候、恐々謹言、

天文十八年西己

六月廿二日

山本菅助殿

90 飯縄大明神繪馬

飯縄大明神款状者、市川梅隱齋等ノ長・同一平・同新五郎・沢藏宮千代丸・駒ノ千代・年寄・御寮人・初女・御房女、各子孫ノ繁昌・武運長久、福德為如意也、ノ右社地、武田大膳大夫信濃守晴信様ノ預上候処、地頭甘利左衛門尉、代官幡ノ野加賀守方江被 仰付、則社地式百坪被ノ下也、

于時永禄九年

丙寅五月朔日奉款状

市川梅隱

91 武田信玄判物

(武田信玄)

別而致奉公、ノ為重恩魚座ノ定所務六拾貫ノ分出置候、

猶依ノ奉公并心持、ノ来秋一ヶ所ノ可充行者也、

(永禄八年)

乙丑三月十日

三枝惣四郎殿

92 武田家朱印状

(封紙ウハ書)

下野国内

三枝宗四郎殿

如先判形之文者、石森之郷之代官申ノ付候、依奉公之淺深、此内相当ニ可出ノ置之旨候き、於奉公者、無異儀相勤候、ノ但去六月以来油断之様ニ候、其上ノ每篇以細事述懐之体、顯顔色候、ノ此所更無分別候、雖然、任先約為ノ重恩、於甲州粉子百俵、於信州長ノ窪、飯室俵之内五十俵、如此渡候、則ノ厚恩無残所候歟、其心得尤ニ候者也、仍ノ如件、

山県三郎兵衛尉奉之

(永禄十年九)十一月廿九日(龍朱印)

三枝宗四郎殿

93 武田勝頼判物

(封紙ウハ書)

山県善右衛門尉殿 「勝七」

定

一、飯田之内

一、各和郷内各和肥後分

近年到駿・遠両州出陣、云勤勞、ノ云忠節、不知所謝候、

今度高ノ天神属手裏之上者、遠州ノ静謐眼前候条、右如

此出置候、ノ猶随勝頼本意、可重領知候ノ者也、仍如件、

天正二年甲戌

七月廿八日 勝頼(花押)

山県善右衛門尉殿

95 城景茂等連署起請文

(懸紙ウハ書)

上 庭谷

天罰起請文

一、此已前奉捧数通之誓詞、弥不可ノ致相違之事、

一、奉対 信玄様、逆心謀叛等不可相企之事、

一、為始長尾輝虎、自御敵方以如何様之ノ所得申旨候共、

不可致同意之事、

一、甲・信・西上野三ヶ国之諸卒、雖企逆／心、於某者無二ニ奉守 信玄様御前、可／抽忠節之事、

一、今度別而催人數、無表裏、不涉二／途、可抽戰功之旨可存定事、

一、家中之者、或者甲州御前惡儀、或者／臆病之意見申候共、一切不可致同心候事、

右此旨偽申候ハ、^(備)蒙上ニ者梵天・帝／釈・四大天王、下ニハ堅牢地神・円／^(備)摩法皇・五道之冥官、殊ニ者八幡

／大菩薩・諏方上下大明神・飯／繩大明神・戸隠權現・熊野／三所之權現・甲州一二三之大明神・／国立橋立之

大明神御罰、於今生者／黑白二病請、来世ニ而者不可免阿鼻／極災共者也、仍起請文如件、

永祿十年卯八月七日

景茂 (花押)

今井九兵衛

昌茂 (花押・血判)

玉虫助大夫

定茂 (花押・血判)

六嶋六右衛門尉

守勝 (花押)

甘利郷左衛門尉

信康 (花押・血判)

吉田左近助殿

浅利右馬助殿

96 樂巖寺雅方等連署起請文

(懸紙ウハ書)

(異筆)

「布下」上 敬白 起請文

鉄炮衆

一、此以前奉捧候数通之誓詞、弥不可致相違之事、

一、奉対 信玄様、逆心謀叛等不可相企之事、

一、為始長尾輝虎、自御敵方以如何様之所得申旨候共、

／不可致同意之事、

一、甲・信・西上州三ヶ国諸卒、雖企逆心候、於某者無二ニ守 信玄様御前、可抽忠節之事、

一、^(今)度別而催人數、無表裏、不涉二途、可抽戰功之旨可存定之事、

一、家中者、或甲州御前惡儀、或臆病意見申候共、一切二不可致同心之事、

此旨偽候者、^(狀)奉始上梵天・帝尺・四大天王・三界所有天王天主・日

／月五星諸宿曜等為上首、下難跋二龍・内海外^(海)龍王龍主、殊ニハ王城鎮守稻荷・祇園・賀茂下／上・関

東守護二所・三嶋・若宮八幡大菩薩、甲^(州)□／一二三大明神・信州諏方上下・飯綱・白山妙理／權現蒙御罰、於今生受黑白二病、至来□□／可□在無間地獄者也、仍如件、

永祿十年

樂巖寺

丁卯 布下仁兵衛

八月七日 雅朝 (花押・血判)

諸沢堪介

信隆 (花押・血判)

依田長門守

篠沢新九郎

頼房 (花押・血判)

金丸平八郎殿

97 武田家朱印状

(龍朱印) 覚

一、今度有首尾向遠州出馬企、一大事之／行候之間、暫

可為張陣候、然則必就家康「訴」／詔信長、「木曾者伊奈へ」可及後詰歟、□□／郡上下之貴賤兼日成其覚

悟、大細共二守／典厩下知并玄德齋・保科父子異見、抽忠節／候様可被申付事、

一、為松尾・下条・春近衆、主人之儀者不及是非、／家

中之乙名數者并部類繁多之族、妻／子悉高遠へ可召寄事、

一、地下人之事者、以案内者令札明、或疑心之輩、／或部類広き族計妻子高遠へ召寄、其外之／地下人二者、

嚴重ニ誓詞被申付、不可企逆「心之」／旨被相定、然而山小屋へ入、或敵退散「御歟」、／或通路をさいき

るへき時節召出、持可被申／付事、

一、於今度抽忠節輩者、於侍者出知行、寄「騎并」／凡下之輩者、当座之引物・黄金・鳥目・糒子／以下宛行、

惣而可被叶所望之事、

一、大嶋在城之事者、玄德齋并栗伊、小六□□／たるへし、其外秋伯同心之國衆、足輕衆者守小六・／保彈下知、

昼夜番勤仕之事、

付、堅固之備、各無表裏可申合、又人數為不／足者、可有加勢之事、

一、妻籠之番、如此間、可為松尾衆之事、

付、肝要時節之事、

一、小掃者、在所之人數悉召連、清内路口警「固」、／自身者山本在陣之事、

付、条々、

一、下条者、波合口・新野口以下貴賤上下共、人數／悉召連警固、自身者山本在陣之事、

付、条々、

一、小掃・下伊家中之地下人已下、兼日仕置肝／要候之間、就中誓詞・人質主人所望之事、

一、松嶋并小丹同心之大草衆、証人を相添、「悉」／奥山へ加勢可相移之事、

付、小丹高遠在城、青助者帰府之事、

一、木曾へ不置相談、彼谷堅固之備肝煎之「事」、

付、加勢可被任所望之事、

一、典厩者、高遠本城在陣之事、

付、人衆者、諸曲輪へ可被相賦之事、

一、下口之貴賤、小屋入以下之支度相調候内、／上伊奈・箕輪辺之貴賤相集稼之事、

一、奥山二者、此間之加勢衆并松嶋・大草衆可在／城、大洞二者典厩同心之知久衆、跡美同心之知久／衆在番之事、

一、為松嶋番替、黒河内可指越之事、

一、下伊奈衆者大嶋、上伊奈衆者高遠へ、糝子／入置候之様可申付事、

一、万乙諸口相破者、松尾・下条者大嶋、春近衆者／高遠へ可相移事、

一、兼日向敵陣及行者、以火狼煙首尾、山々嶺々之／人数可相集事、

一、木曾・下条・松尾・春近衆以下、目付之事、

一、飯嶋・片切別而為忠節者、為重恩本知行／大草可出置之旨理之事、

一、大嶋・座光寺・伴野家中以下、別而勵忠信者、／於何事も可被叶所望之旨理之事、

一、伊奈郡上下、木曾衆へ存之外、可加懇^切事、

一、敵揺之砌、聊爾ニ城外へ被出防戦可禁之、／畢竟何時も城内之役所を堅、以浮衆可討後事、

一、山家三方衆者、加下条可相持之事、

一、大嶋・座光寺、地下人之物主直參衆たるへ／き事、

一、坂西・久内・伊月・矢沢又兵衛尉・佐野善右衛門尉・

／佐々木新左衛門尉以下、自伊奈郡敵地へ退候／輩之徒類相改、仕置談合之事、

一、敵之揺為虚説者、在陣衆并人夫相催／普請之事、

一、大嶋・高遠之城、物不足之所可注進、可遣之事、

以上、
（天正三年九）
八月十日
保科筑前守殿

98 武田家朱印状

定

一、烏帽子・笠を除去、惣而乗馬・歩／兵共ニ甲之事、

付、見苦候共、早々支度之事、

一、打柄・竹柄・三間柄之鑓専用意之事、

付、仕立一統之衆一様たるへきの事、

一、長柄十本之衆者、三本持鑓、七本／長柄たるへし、

長柄九本・八本・七本之／衆者、二本持鑓、其外者長柄たる／へし、長柄六本・五本・四本・三本・／二本

之衆者、一本持鑓、其外者長柄、／又一本之衆者、惣而長柄たるへきの事、

付、弓・鉄炮肝要候間、長柄・持鑓等／略之候ても持參、但有口上、

一、知行役之鉄炮不足ニ候、向後用／意之事、

付、可有藥支度、但有口上、

一、鉄炮之持筒一挺之外者、可然放手／可召連之事、

一、乗馬之衆、貴賤共ニ甲・咽輪・手／蓋・面頬当・脛楯・

差物專要／たるへし、此内一物も除へからさるの事、

付、歩兵も手蓋・咽輪相当ニ／可被申付之事、

一、歩兵之衆、隨身之指物之事、

一、知行役之被官之内、或者有徳之／輩、或者武勇之人

を除去、／軍役之補として、百姓・職人・禰宜、／又

者幼弱之族召連參陣、偏ニ／謀逆之基不可過之事、

一、定納二万疋所務之輩、乗馬之／外、引馬式疋必用意

之事、

以上、
（永祿十二年）
己巳
十月十二日（龍朱印）
土屋奉之
市川新六郎殿

103 武田家朱印状

（獅子朱印）

龍王御河よけ／押なかず之由被聞／召候間、水下之御家／人・御印判衆早速／罷出、人夫をもよほし、／彼御河よけ相つゝき候／様ニ可走廻者也、

今福和泉守奉之

六月廿九日

龍王御河よけ

水下之郷

104 武田家朱印状

（封紙ウハ書）

三井右近丞殿

定

累年拘来田島於為名／田者、雖有増分被任御国／法可被成御赦免、至土貢／并諸役・夫役等者地頭へ速／可致弁償之由被 仰出／者也、仍如件、

曾祢河内守

天正八年庚辰

十二月廿一日（龍朱印）
奉之

追而有申掠旨者、／可被悔還者也、

三井右近丞殿

106 武田家過所

彼者馬志疋口、諸 役所可透也、

（龍朱印） 天文拾壹年寅閏三月十五日
源右衛門

107 武田家朱印状

（龍朱印）

肴之奉公／就相勤、一月ニ／馬參疋之分、／諸役令免許／者也、仍如件、

〔天文十九年乙〕
戌三月十日

坂田之 源右衛門

108 武田家朱印状

(龍朱印)

八日市場勤伝馬衆

忝間 次郎右衛門

忝間 与惣右衛門

忝間 文四郎

間中 新左衛門

忝間 江間屋敷

忝間 縫殿右衛門

間中 藤左衛門

忝間 又左衛門

忝間 藤介

間中 新七郎

間中 孫兵衛尉

間中 善三郎

間中 四郎次郎

間中 清書記

間中 式部丞

忝間 源左衛門

忝間 文与

忝間 清七郎

間中 七郎左衛門

間中 惣兵衛

忝間 与一左衛門

間中 与三右衛門

間中 七郎右衛門

忝間 善兵衛

間中 新三郎

間中 善介

忝間 向山新四郎

忝間 四郎右衛門

間中 新三

忝間 文六

以上三拾人

在旨趣別紙、

天正四年丙

六月廿八日

109 武田家朱印状

定

雖為無足、御細工之奉公、御留守之御番、無疎略相／勤条、向後宿次之御普請／役・夜廻之番等、有御免許之／由被 仰出者也、仍如件、

天正四年丙 市川備後守 奉之

卯月七日(龍朱印)

柵津清次郎

110 武田晴信感状

於于去二月十五日／信州水内郡葛山地、／頸忝討捕条、戰功之至／感入候、弥可抽／忠信者也、仍如件、弘治三丁

三月十日 晴信(龍朱印)

三井助七郎との

111 武田信玄書状

於于其地長々苦勞察入候、甲信ノ諸卒一統之在陣候則、不限一身／勞煩ニ候得共、番普請等之窮屈／可為大儀候之条、為番替近日下／伊奈衆指遣候、着城之上、即其方／參陳待入候、恐々謹言、

八月廿日 信玄(花押)

(異筆) 原与左衛門尉殿

115 武田家朱印状

定

以忠節在所退出、神妙被思召候、仍勝間田上庄之内、門原・のへ・安堀／名職事、如瀬尾善左衛門尉時、田島／悉相抱、百姓役嚴重可相勤、然而／船忝艘之分、除公用諸役有御／免許之由、被 仰出者也、仍如件、

天正二戌 土屋右衛門尉

六月廿七日(龍朱印) 奉之

長谷河惣兵衛尉

116 武田勝頼感状

寄親候松田上総介、对／勝頼忠節之始、去十月廿／八日向葦山被及行処ニ、／北条美濃守出人数間／逐一戦刻、頸忝討捕条、／神妙候、仍太刀一腰遣之候、／自今以後、弥可励武功／者也、仍如件、

十二月八日 勝頼(花押)

小野澤五郎兵衛尉殿

118 武田信玄判物

定

一、後屋敷之郷 合百五拾貳貫

付、陣夫者、直ニ可召使候

／間、市部之夫、如前々／相渡候也、

一、境之郷 合三拾參貫文

付、陣老人、

合八拾貫余有之、

付、此外可有納物也、

一、同塩尻 合貳拾貫

都合貳百八拾五貫也、

就于高嶋在城、如此出置、猶依于／奉公可宛行重恩者也、仍如件、

仍如件、

元龜元年庚午七月六日 (花押)
市川宮内助殿

119 武田家朱印状

定
其方知行境・後屋敷兩ノ郷之百姓、田地役之普請并土貢之ノ粉子等、府内へ運送難渋之由候、ノ自今已後者、拘来候田地相当之ノ役、堅可被申付候、此上若及異儀者、ノ可被加御成敗之由、被 仰出者也、仍如件、

跡部大炊助

元龜四酉

十月廿八日 (龍朱印)

市川宮内助殿

120 武田家朱印状

定 (龍朱印)

- 一、乘馬 付、甲・立物・具足・面頬・手蓋・咽輪・脛楯・指物、四方敷(しなやか)、高サ如法たるへし、 自分
 - 一、小幡 付、共二二間之中、朱して有へし、 一本
 - 一、持鑓 付、共二二間之中、朱して有へし、 式本
 - 一、鉄炮 付、上手歩兵之放手たるへし、玉薬 式挺
 - 一、弓 付、上手之射手、うつほ并根・絃、無 壹張
 - 一、長柄 付、実五寸、并木柄之打柄たるへし、 六本
- 以上拾式但、小旗共、

右、如此調武具、人数召連可動軍役、領中荒地、ノ其外有申掠者、重而以檢使相改可加 下知、随而歩兵衆、ノ何茂甲・立物・手蓋・喉輪可着之者也、仍如件、
天正四年丙

五月十九日

市河助一郎殿

121 大須賀康高黒印状

本領之事

式十九貫文 惣田之内
卅五貫文 一之瀬五郎兵衛分
從信州小野之替地也、 手作分
卅貫文 篠原之
合九拾四貫文 孫右衛門分

右如前々出置候、被官・夫丸共ノ不可有異儀候、但言上於相違ノ者、此一札立間敷候、可被抽奉公ノ忠節者也、仍如件、

匂坂牛介

天正十年

六月廿二日 大須賀 (康高) 黒印)

山本十右衛門殿

122 德川家朱印状

甲州後屋敷之郷三ノ百貫文、夫錢共二同夫ノ式人、境之郷百貫文、同ノ夫耆人、并名田被官ノ等之事、ノ右本給之由、言上候間、如前々ノ不可有相違、弥守此旨ノ可抽忠信之状如件、

天正十年

拾月八日 (福德) 朱印)

市川宮内助殿

124 德川家朱印状

甲州本領後屋敷郷三百ノ貫文、境之郷百貫文、後屋敷ノ郷夫丸式人、境郷夫丸耆人ノ等之事、ノ右領掌不可有相違之状ノ如件、
天正十一年

後正月十四日 (福德) 朱印)

市河助一郎殿

125 丹羽長重判物

領知方

一、百石 石川郡 内沢井村之内
一、百石 田村郡 山神村之内
合式百石

右為支配宛行条、山林竹ノ木并川小物成相除之、全可ノ令知行者也、

寛永五年

十月二日 長重 (花押)

市川喜兵衛との

126 德川家奉行連署状

肴之役御代官被 仰ノ付候、国中諸口宿役ノ共二年中黄金四拾兩ニノ相定候、如前々新儀無ノ非分様ニ調、毎年六月ノ式拾兩、極月式拾兩、如ノ此可被納者也、
乙酉 天正三年

二月朔日

桜井 (口宝) 黒印)

以清齋 (龍) 黒印)

石四郎右 (結) 黒印)

玄隨齋 (印文未詳黒印)

坂田甚八殿

127 德川家奉行連署状

肴之役、年中ノ黄金三拾兩ニ相ノ定之候、此内拾兩ハノ黄金、式拾兩之分ハノひた錢ヲ以百貫文ニ落ノ着候、右之内七月半ノ分、十二月半分、兩度ニノ可納御座候也、仍如件、
丙戌 天正十四年

三月二日

桜井 (口宝) 黒印)

以清齋 (福口) 黒印)

石四郎右 (結) 黒印)

玄隨齋 (隨) 黒印)

日下部 (印文未詳黒印)

成瀬 (印文未詳黒印)

坂田甚八殿

130 徳川家康判物

〔封紙ウハ書〕

〔新六郎殿〕

修理大夫跡職ノ事、如前々新六郎ニ申付候条、人数等

ノ不散様、堅可ノ申付候、然者其元ノ陣中之儀、羽柴ノ

中將殿任差図、ノ可走廻候也、

〔天正十八年五月十一日〕

〔花押〕

新六郎殿

131 上杉景勝朱印状

今般可有忠信尔付而ハ出置地之覚

一、自綱取奥郡年来所務之所

一、家中ハ勝頼直恩之所

一、仁科之内小岩竹・西巻一跡之事

以上、

右不可有相違者也、

天正十年

六月十六日〔朱印〕

市河治部少輔殿

132 上杉景勝書状

兼日如申定候、飯山之地無相違ノ被相渡候事、誠忠信感

悦不浅候、ノ乍此上各以稼、其国弥任存分候様ノ肝煎任

置候、然者春日彈正忠今ノ般可抽忠信之由被申越候、旁

任ノ指図ニ朱印差越候、雖無申迄候、ノ一功有之様ニ催

促可被申候、猶ノ以面可申候、恐々謹言、

〔天正十八年六月廿日〕

景勝〔花押〕

市川治部少輔殿

河野因幡守殿

大瀧土佐守殿

須田右衛門尉太夫殿

133 上杉景勝書状

蘆田ヘ之飛脚帰着、彼返状共此ノ元被差越祝着之至候、

仍其表無替ノ儀由肝要候、兼日如申定、源五事ノ別而入

魂任置候、万端仕置何篇もノ分別次第、源五談合有之被

相計ノ尤候、恐々謹言、

〔天正十年八月十二日〕

景勝〔花押〕

屋代左衛門尉殿

134 上杉景勝判物

覚

一、塩崎寄力之事

一、榊木三ヶ村并ノ同心給共之事

一、八幡并神主共之事

一、庄内同同心給共之事

右、近年抱来処ノ者不及申、為新ノ恩四ヶ条出ノ置候者、

相違有ノ間敷者也、仍如件、

天正十年

十二月十二日 景勝〔花押〕

屋代左衛門尉殿

135 武田カ信清判物

於本意者万疋之地ノ可出、忠節專一也、ノ仍如件、

天正十一年

極月十四日 信清〔花押〕

窪惣左衛門

138 年頭の祝儀太刀一腰到来につき 武田大隅宛書状

為年頭之祝儀ノ太刀一腰到来、ノ欣然候、猶広居ノ出雲

可申候、謹言、

正月朔日〔上杉齊意花押〕

武田大隅殿

139 豊臣秀吉御内書

為歳暮之祝ノ儀具服二到ノ来之、悦思ノ召候、猶石田治

部少輔ノ可申候也、

極月二十八日〔朱印〕

真田安房守殿

140 真田信幸判物

以上

為信州知行ノ替、猿ヶ京屋敷・ノ免田共五拾貫文、ノ川上

之内北能登分ノ拾貫文、右之分相ノ渡申候者也、仍如件、

〔天德三年甲午〕

十二月五日 信幸〔花押〕

矢澤忠右衛門尉殿

141 徳川家康判物

〔封紙ウハ書〕

「真田伊豆守殿」

今度安房守別心ノ之処、其方被致忠節ノ儀、誠神妙候、

然者、ノ小泉之事者親之跡候ノ間、無違儀遺候、其上ノ

身上何分ニ茂可取ノ立之条、以其旨弥如ノ在被存間敷候、

仍如件、

慶長五年

七月廿七日 家康〔花押〕

真田伊豆守殿

142 真田信之書状

已上

矢沢但馬守煩散々ノ由候、若被相果候ノ者、跡式并同心

ノ已下迄不可有ノ異儀候、万事任ノ遺言、前々之通ノ申

付候条、得其意／全可令領知者也、
(寛永三年)
寅) 伊豆守

二月十九日 信之(花押)

矢沢外記殿

148 結城秀康朱印状

宛知行分之事

- 一、高千拾石七斗七升 田中領 上石田村
- 一、高千三百式拾六石式升 同領 佐々生村
- 一、高六百五拾五石四斗四合 同領 小倉村 大畠村

合參千石者

右知行分無相違可／有領知者也、仍如／件、

慶長六年

丑 九月九日(朱印)

笹路大膳殿

149 結城秀康朱印状

定

- 高式百石 内藤忠兵衛
- 高百石 月岡喜右衛門
- 高式百五拾石 田布施大隅
- 高式百石 柿岡右衛門
- 高百五拾石 只越大学
- 高百五拾石 志村次兵衛
- 高百五拾石 飯田刑部左衛門
- 高百五拾石 完倉縫殿助
- 高百五拾石 渡辺兵庫
- 高百石 渡辺右馬助
- 高百石 伏木久助
- 高百石 堀込次郎右衛門
- 高式百石 豊田左衛門
- 高百五拾石 同人歩寄子五人

合式千五百拾石

右之分寄子知行無相違可／相渡者也、

慶長六年丑九月九日(朱印)

笹路大膳殿

150 徳川家朱印状

甲州相田式拾／九貫文・下河原柳^(郷)／内巻貫六百文・信州

／小野五十貫文事、／右為本領之由言／上之間、不可有相違、／以此旨可存忠信之／状如件、

天正十年 安倍善九

九月五日(「福德」朱印)奉之

山本十左衛門尉殿

151 徳川家朱印状

甲州本領相田郷參拾五貫文・／下河原内巻貫六百文等事、

／右領掌不可有相違之／状如件、

天正十一年(「福德」朱印)

後正月十四日

山本十左衛門尉殿

156 近藤忠重書状

尚々しせん御奉公／御かせき候ハ、具ニ御申／儀可

被成候、御年寄衆・／御前衆へも近藤三九郎親／類い

とことしなと、取／沙汰可申候や、兎角／御返事次第

ニ／爰元似合敷事のミ／御用等候ハ、御申越／可被成

候、少も如在申／間敷候、委ハ重而／御吉左右可被下

候、／以上、

新春之御慶／何方も目出御同／前ニ存候、仍其元／御達

者ニ御座候や、／良久不能面談／御床敷奉存候、／此地

我等も無事ニ／奉公仕候、貴様御／事ハいつもの御／在

所ニ于今御牢／人ニ而御座候哉、／又何方へも御身上／

御有付被成候や、耽／承度存候、自然／御奉公なと御望

二候ハ、／御申越可被成候、卒爾／成申事二候へ共、

御心易／まゝ申入候、旧冬なとも／殿様御内ニ而式百石

／寄騎なと御かゝえ／被成候、其元へ書状ヲ／進候而聞

申候、自然／乍御不定も式百石寄／騎ニも御済候ハすい

／分きもいり可申候と／存候へ共、遠路と申／御心中難

計候間、／不申進候、自然／殿様へ御奉公被成／度思召

候ハ、こま／くと／我等方へ御状可被下候、／成相分

念ヲ入、我等おち近三九／なと、談合可申候、我等／儀

も其元ヲ罷越候時／分ハ、若年のまゝ、貴様御／事耳委不

承無／念申候、慥貴様ハ山本勘介殿／御孫殿ニて御座候

よし／はんはわ被申候、実儀ニ／山本勘助殿孫ニて御座

／候ハ、成ぬ迄も御身上之／事近三九郎と致談／合候

而、殿様へ御年寄衆／被仰上候様ニ可仕候や、申／上自

然御かゝへ可被成／御定ニ候ハ、御知行之儀／も式百石

とも三百石とも／相定飛脚可進候間、／具ニ御状可被下

候、／右之趣卒爾ニ申候事／いかゝと可被思召候へ共、

／去年中我等江／戸ニ罷有候砌ニ、／殿様甲陽軍鑑と／

申物本御間被成、／此ものゝ本ニ山本勘助／のり被申候

ゆへ、勤助／子孫候ハ、御かゝへ度／御定ニ候へ共、御

前ニ居／被申候衆貴様事、不被／存候へいかゝの事も

／無御座候、御奉公被成／度思召候ハ、三九郎と致／

談合、今年方そろ／くと御年寄衆・御／前衆なとの耳

ニ入／おき、御縁御身上御済／可有候や、是耳／聞申度

まゝ如此候、／委ハ采女と御物語／可被成候、我等も来

月／之末ニ江戸へ番替ニ／参候条、其節御報／拜見可申

候間、早々／申上候、御沙汰御無用ニ／御座候、御心易

俣火中ニ／可被成候、恐惶謹言

近藤七郎兵衛

正月廿四日 忠重(花押)

水戸

山本三郎右様

人々御中

157 江戸幕府奉行連署状

以上

辻茂右衛門妻子上下／六人佐州へ参候、高木／筑後殿・花房勘左衛門殿／任御理リニ指越申、／道中無相違御通／可被成候、為其如此申／入候、

諸星庄兵衛

(寛平九年)
八月廿一日

(花押)

岩波七郎右衛門

(花押)

平岡次郎右衛門

(花押)

諏方領分

松本領分

松城領分

飯山領分

高田領分

158 小幡景憲印可状

夫治世以文、乱世以武、不可不兼／備矣、漢朝孫武極要虛實、本朝／甲陽軍鑑眼目在天地三備定／陰陽分合和漢如合符券 信玄公／之兵術、豈不冠本邦乎、於是累年／其方志武備學傾心、於此一道而／以磨金鼓節而教成因茲兵術之／奧儀五之曲尺迄、悉伝附畢、是／武將築城事、初學之先務也、故／一城三回輪天人地有三段繩、能／觀方圉之形体度、広狭長短而、／隨其所宜築城、則以小勢配人／數、縱雖受大敵、其防戰全之事／必定勝利不可疑、且又不殆者也／楮尾作三箇条目可守之、更以／勿狐疑矣、

一、右五之曲尺謂其數曰 一本有之曲尺／二勝複曲尺

三重々曲尺 四卍字曲尺 五人心曲尺、各藏心施行、

則莫窮／如天地不竭如江海、豈是不卍字矣、

一、甲州大剛勇士廣瀬・早川此外各／謂余云、人心曲尺

正道正理明大／要也、故 法性院殿持国之作法、／能定布陣、設陰陽之備、制敵皆／是人心之曲尺也、縱雖

為小身之／人、能勘弁曲尺於心意、則敵之虛／実・懸待・表裏万差不闕、於爰／其方學此道以敏而且勤故、

感其／成功龍虎豹之三品并愚拙從十／三歲志武備之道見聞之事／筆書是等迄相渡者也、

一、武田八陣之図并七千五百之備／立、臨時設之百戰無不百勝古人／豈不道乎、有文章者必有武備／有武事者

必有文備呼後生可／畏矣、故書以印可、勿輕忽珍重、

万治三庚 小幡勘右兵衛尉

八月吉日 景憲(花押、朱印)

山本菅助殿

159 武田信貞書状

(端裏ウハ書)

武田越前守

(墨引)

永井甲斐守様

信貞

人々御中

昨日者御出樂奉存候、早々／御歸故不得御意御殘多存候、被仰／置候趣承知、御懇懃之至存候、山本／勘助方儀、

内々佐渡殿被仰聞候、先日／我も拜殿ニ而与風出合遂申本／望存候、何茂期面上可申伸候、恐惶／謹言、

六月十七日

信貞(花押)

160 柳沢保山(吉保)書状

今度寿像安置／本望之至候、／信玄公尊像被遣／置之地雖可恐入義候、／愚存有之故不顧／外評及此儀候、猶／使者淺利藤左衛門可／申述候也、謹言、

七月廿日 前国主保山(花押)

惠林寺東法和尚 机下